

氏名	桑原良知		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	甲第164号		
学位授与の日付	昭和40年3月31日		
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	胃癌の免疫学的研究		
論文審査委員	教授 田中早苗	教授 砂田輝武	教授 妹尾左知丸

学位論文内容要旨

人癌に特異抗原があるとすれば、宿主である人との間に自家免疫が成立する可能性がある、すなわち同種移植に似た様相が推定される。

著者は末期胃癌患者血清を抗原とした家兎抗血清を用い、免疫電気泳動法にて癌患者血清に特異な成分を追求し、次に胃癌のミトコンドリア分画を抗原として Boyden 変法にて癌患者血中抗体を測定した。さらに細胞性抗体の一つの現われと思われる癌巢の周囲間質の円形細胞浸潤を検索し、免疫電気泳動による癌特異沈降線、および血中抗体との関連をみた。

胃癌患者手術前後の血清にて血中抗体と特異沈降線に負の相関が認められ、血中抗体と間質の円形細胞浸潤には正の相関が認められた。

移植免疫は血中抗体よりもいわゆる細胞性抗体の占める役割が大きいとされている。かかる移植免疫の観点より、血中抗体、特異沈降線、円形細胞浸潤の三者を眺めると、円形細胞浸潤はあたかも移植免疫の主体であるリンパ球様細胞であって、この反応の強いものでは抗体産生が強く、逆に血中抗体と負の相関を示す特異沈降線は血中癌抗原を分析していると考えられる。すなわち同一患者血清中に癌抗原と癌抗体が共存しており、癌抗原の血中への流入抑制と抗体産生の両者を円形細胞が支配しているのではあるまいかと考えられる。

(岡山医学会雑誌 第77巻第2号掲載予定)

論文審査の結果の要旨

桑原良知提出の「胃癌の免疫学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

即ち、桑原は末期胃癌患者血清を抗原とした家兎抗血清を用い、免疫電気泳動法にて癌患者血清に特異な成分を追求し、次に胃癌のミトコンドリア分画を抗原として Boyden 変法で癌患者の血中抗体を測定した、さらに細胞性抗体の一つの現われと思われる癌巣の周囲間質の円形細胞浸潤を検索し、免疫電気泳動による癌特異沈降線、および血中抗体との関連をみた、胃癌患者手術前後の血清で血中抗体と特異沈降線に負の相関が認められ、血中抗体と間質の円形細胞浸潤には正の相関が認められた。

移植免疫の観点から血中抗体、特異沈降線、円形細胞浸潤の3者を眺めると、円形細胞浸潤はあたかも移植免疫の主体であるリンパ球様細胞であって、この反応の強いものでは抗体産生が強く、逆に血中抗体と負の相関を示す特異沈降線は血中癌抗体を分析していると考えられ、即ち、同一患者血清中に癌抗原と癌抗体が共存しており、癌抗原の血中への流入抑制と抗体産生の両者を円形細胞が支配しているのではあるまいかと推論している。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。